



清流NEWS

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 Tel 042-514-8309
発行日 1月・7月

Vol. 130

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

浅川流域連携事業

第11回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～

あさかわ写真コンクールは、日野市の中央を流れる「浅川」の魅力
を広く人々に伝えるため、日野市と八王子市の連携事業として開催し
ています。

皆様に支えられ、今年の開催で11回目を迎えることができました。
昨年は写真展をおこないましたが、ご好評につき再びコンクールを開
催する運びとなりました。皆様からの浅川の魅力あふれる写真をお待
ちしております。

募集要項は以下の通りです。

募 集 要 項

募集期間 2022年7月1日～2022年9月2日(必着)

撮影範囲 浅川(北浅川)、南浅川 ※支流は除きます。

- 応募条件**
- ・横位置の写真であること。
 - ・プリントした写真で応募の場合は、縁無しA4サイズ(210×297mm)であること。
 - ・電子データで応募の場合はJPEG形式であること。組写真は対象外とします。
 - ・未発表及び他に応募していない、自分で撮影した作品であること。
 - ・極端な補正、合成等の加工を行った作品でないこと。
 - ・撮影のため環境に人為的な加工をするなど、生きものや環境にダメージを与えずに撮った写真であること。
 - ・カラー、モノクロの区分はありません。

部 門 中学生以下の部・一般の部(高校生以上)

応募点数 一人5点まで

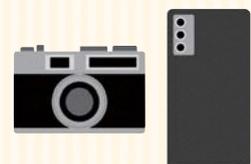
応募方法 郵送・電子メールいずれの場合にも、必要事項を明記した所定の応募用紙を同封・添付して、ご応募ください。電子メールでの応募の場合は、1通につき作品データ1点の添付としてください。(メール容量が5MBまで)

応募先 191-8686 日野市神明1丁目12番地の1
日野市緑と清流課 あさかわ写真コンクール担当 宛
メールアドレス seiryu@city.hino.lg.jp

詳細な募集要項は、緑と清流課窓口や市のホームページ等で入手できます。
その他、詳細は緑と清流課までお問い合わせください。



第11回あさかわ写真コンクールポスター



今年から環境月間をリニューアルします!!

日野市は河川、用水、湧水などの水域が多く、市の北側を多摩川、市の中心を浅川が流れています。また、日野台地の崖線と多摩丘陵方面には豊かな緑が残されています。程久保川や豊富な湧き水もあり、「水の郷 日野」にふさわしい財産です。

この多くの資源が田畑を潤したり、数多くの生きものを育む場所にもなっています。また、人々が憩いの場として親しんだり、子どもたちが魚とりや虫取りなどで楽しんだりすることも多いはず。豊かな自然は、四季折々の美しい景観を生み、豊かな心を育てます。

しかしながら『環境』といってもひとくくりに自然環境を意味するものではありません。ご存知の通りごみ問題や地球温暖化などは今も世間を騒がせている環境問題の一つであり、環境を考える上では重要なテーマであります。

そこで毎年10月に緑と清流課でおこなっている環境月間ですが、今年から期間を変え、リニューアル開催することにしました。

緑と清流課に加え、環境保全課、下水道課、ごみゼロ推進課、施設課など、環境共生部全体で開催し、期間としては8月から10月を予定しております。

これまでの緑と清流ポスター、ミニ水族館、日野用水クリーンデーに加え、ごみ減量ポスターや環境フェアなども環境月間の期間に開催しますので楽しみにお待ちください。



環境フェア



緑と清流ポスター



ミニ水族館

● **おとぐち公園**
(**街区公園112**)
所在地：三沢4-1
16-4 / 面積：925
㎡ / 開園日：昭和
61年6月16日
このあたりから
高幡十字路までの

この公園の地を含むあたり
一面は、昭和40年代のはじめ
頃までは雑木林におおわれ、
公園のすぐ東には
三沢村内の稲荷沢
と呼ぶ沢(谷)が
入りこんでいた。
沢の入り口付近に
稲荷を祀る小祠が
あるところからこ
の名が生まれたと
みられる。



「おとぐち」とは、「ほとぐち」の語源が訛(なま)ったものです。ここから多摩テック方面までの、細長い山あい
のところが地形から言って
「ほとくぼ」と呼ばれ、その
入口を意味しての「ほとぐち」
が、やがて「おとぐち」となっ
たのです。

一帯を、古くから土地の人々
は、「おとぐち」と呼びなじ
んできました。



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

第4次日野市地球温暖化対策実行計画

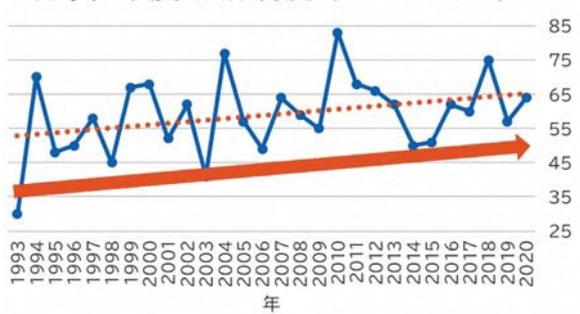
令和4年(2020年)3

月に第3次地球温暖化対策実行計画が計画期間を終えたことを受け、第4次計画へ改定しました。本計画では、日野市の地域特性を踏まえ、国や都が進める地球温暖化対策や市の環境基本計画と整合を図り、市・地域それぞれが行う取組みを定めた計画としました。

この計画では、令和12年度(2030年度)までに平成17年度(2005年度)比で二酸化炭素排出量を46%以上削減することを目指し、さらに長期的な目標として令和32



日野市の真夏日日数(最高気温が30℃以上)



年度(2050年度)までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

現在、地球の気温は上昇傾向にあります。この温暖化は、人間の影響によるものであることは疑う余地がないと発表されました。また、温暖化により、台風が大型化、局地的豪雨が増える等自然災害が増加しています。日野市でも最

高気温が30℃を超える夏日の日数も増加傾向にあり、令和元年の台風19号の被害等温暖化は私たちの身近な問題となっています。

地球温暖化の原因は、人間の影響によるものです。もっと詳しく言うならば、人間の活動により、二酸化炭素を始めとする温室効果ガスが増加することによって起きています。既に1℃以上上昇している温暖化が1・5℃を超えてしまうと、陸上で生活できなくなる生物が出てきてしまいます。海の中で暮らすサンゴがほとんど消滅してしまうかもしれません。それほど、この地球という星に暮らす生きもの全てに影響を与えているのです。



温暖化の進行を和らげるために出来ることは何もないのでしょうか。いえ、そんなことはありません。

温暖化を緩やかにするためには、緩和と適応の二つをしっかりと実行することが有効です。ふだんの省エネ行動などにより、温室効果ガスの排出量を削減することで、温暖化の影響を少なくするという考えが緩和です。シャワーを1分減らす、電気をつけたままにしない、ふだんから出来る行動に一人ひとりが取り組むことが重要なのです。また、温室効果ガスを吸収する緑を増やすことも緩和として有効です。

適応とは、温暖化による影

響にあらかじめ備え、温暖化の悪影響をできるだけ少なくしようという考えです。上昇する気温によって増える熱中症に備える。また、豊かな自然を守ることも大切です。豊かな森は雨を大地にたくわえ、こうしたことで、温暖化による洪水のリスクを減らすことにもつながるのです。身近にできる取組みとしては、グリーンカーテンや打ち水などもあります。

一人ひとりの行動が、地球温暖化対策となり、ひいては青い地球をいつまでも保つことにつながっていくのです。



多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました

令和4年4月17日（日）、緑と清流課主催多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました。クリーン作戦は、多くの市民の方の参加を募り、行政と協力して一級河川の清掃活動をおこなう大規模なイベントです。今年も1,300人以上の方に参加いただき、多摩川並びに浅川の環境美化にご協力いただきました。今年度は昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止予防に配慮し、マスク着用実施時間を1時間と短縮しておこないました。また、今回は収集袋の配布を制限してプラスチックごみの削減に努めました。また、実施にあたって参加者には、活動中のマスク着用や一定のソーシャルディスタンスを心がけていただき、新型コロナウイルスの感染拡大予防に十分配慮した体制でおこないました。

日野市の一級河川を保全するためには、清掃活動による環境美化は必要不可欠です。来年度も多摩川・浅川クリーン作戦を実施したいと考えていますので、その際にご参加宜しくお願い致します。

皆様にご協力いただき集められたごみの内訳は次のとおりです。

| | | |
|---------|----|-------|
| 参加団体（組） | | 37 |
| 参加人数（人） | | 1,308 |
| 収集量（kg） | 可燃 | 580 |
| | 不燃 | 940 |
| | 粗大 | 770 |



イエローチョーク作戦 検証期間について



イエローチョーク作戦は、路上に放置された犬のフンの周囲を黄色いチョークで囲むことによって、飼い犬にフンで困っていることを伝える方法です。道に放置されるフンを減らす効果を調べるため、市では検証期間を設け、その期間にイエローチョーク作戦を実施し、アンケートにご協力いただける方を募集しました。現在16名の方に取り組んでいただいております。効果はまだ分かっていませんが、今後アンケートの結果をふまえ、事業として取り入れたいと考えております。

飼い主のマナーアップ及び地域の美化にむけて、引き続き犬のフン害対策に尽力してまいります。

【環境保全課】

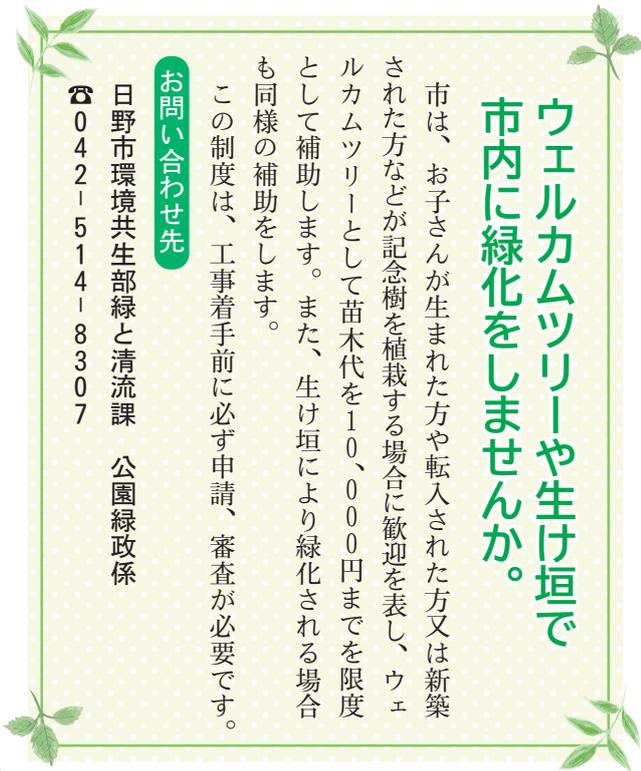
ウエルカムツリーや生け垣で 市内に緑化をしませんか。

市は、お子さんが生まれた方や転入された方又は新築された方などが記念樹を植栽する場合に歓迎を表し、ウエルカムツリーとして苗木代を10,000円までを限度として補助します。また、生け垣により緑化される場合も同様の補助をします。

この制度は、工事着手前に必ず申請、審査が必要です。

お問い合わせ先

日野市環境共生部緑と清流課 公園緑政係
☎ 042-514-8307



用水守募集

日野市緑と清流課では、「用水守」として市内の用水路の清掃活動をおこなって下さる方を随時募集しています。



かつて東京穀倉地帯と呼ばれた日野市には、江戸時代に多摩川・浅川からひかれた農業用水路が今も市内を網の目のように流れています。これら水路の総延長は116キロにも及ぶといわれています。また、市内には数多くの湧水が湧いているなどたいへん水環境に恵まれています。

日野市では、こうした恵まれた水環境を次世代に伝えるため、清掃・維持作業など様々な活動を行っています。一方で、市民の皆さまの水への関心も非常に高く、多くの方が身の回りの水辺を自ら清掃・維持してください。

このような、ボランティアで水辺維持の活動をされている皆さまを少しでも支えることができればと生まれたのが「日野市用水守制度」です。「用水守制度」は日ごろ活動をする範囲を決め、あらかじめ「用水守」として登録いただくことで、万一の事故に備えた、市民総合賠償補償保険の対象者となります。

市では、今後も市と市民の皆さままで協力して良好な水辺の環境を維持管理・保全をしていきたいと考えております。

現在、200名以上の方が、用水守として活動しております。登録は、個人・グループ・自治会・企業など多くの方々を対象としています。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

問い合わせ

緑と清流課 ☎042-514-8309



多摩川クリーン愛好会

当会は平成14年(2002年)

から地域の清掃を始めたボランティア団体です。緑と清流に恵まれた環境に漫然と居住していましたが、当時発表された「日野いいプラン2010・3つの目標」の基本構想に賛同して、この良い環境を守っていきたくと考へ、多摩川に近い日野多摩川自治会の有志が中心になり隣接自治会の方々も含めてスタートしました。

発足にあたり「日野市用水守制度」のご教示を受け、登録団体として安心・安全に活動しています。

活動は、JR中央線鉄橋付近から立日橋間の多摩川右岸堤防周辺道路と河川敷の清掃を行っています。毎年4月に日野市主催の「多摩川・浅川クリーン作戦」とほぼ同じですが当会は毎月定期的に実施しています。

地域の環境美化を目的とした活動が認められ、日野市と東京都のご推挙で平成21年に国土交通大臣表彰を受けました。

発足から20年、活動回数187回、収集した「ごみ」は1,582袋になります。40名ほどの賛同者で始まりましたが高齢化で現在は10名ほどになりました。若返りを画策していますが期待通り進まないのが悩みです。参加要領はWeb「Hi Know」でも紹介しています。

作業しながら「マナーの低下」を痛感しますが「ご苦労様」と声をかけてくださる方も多く、これを励みに今後も頑張っています。



多摩川クリーン愛好会の皆様



清流ニュースにひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を載せて欲しい！」や「こんなイベントを企画して欲しい！」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先

(お手紙、FAX、メール等でお願ひします)

日野市役所 環境共生部 緑と清流課
清流ニュース担当宛て

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

FAX 042-583-4483

メール seiryu@city.hino.lg.jp

向島用水の床止改修工事について

(1) 工事の目的

向島用水床止めは、浅川河口（多摩川合流地点）より1.85km地点に位置する農業用水を取水するための床止めです。この床止めは、昭和36年の災害復旧事業以降改修されておらず、老朽化及び損傷と河床の低下及び床止めの摩耗により、床止めの天端高が施工当時より低下しており、農業用水が取水できない状況で



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

した。

さらには、令和元年台風19号により、床止めの一部が流亡したとともに、左岸高水敷が洗堀を受け、滯筋が床止めより左岸側に偏向してしまいました。これにより、床止めとしての機能が全く果たせなくなっていました。

近年は、台風だけでなく、集中豪雨、ゲリラ豪雨等が多発しており、高水敷の洗堀が進行する恐れがあり、治水上の支障が懸念されます。そこで用水組合の申し出により東京都が令和3年9月から3月にかけて床止めの改修工事をおこないました。

(2) 工事後の様子

取水門から対岸にかけて護床ブロックが整然と立ち並ぶ様子を見ることができ、向島用水路へ水をとりこみやすくなったため、ゴミ



施工前 (2016年)



施工後 (2022年)

がたまりやすかった取水門付近は比較的清潔に保たれるようになりました。また、水路の流れが安定し、下流の水車は今のところ止まることなく回り続けています。新井の水田も順調に進んでいるようです。

ふれあい橋周辺の水辺利用について

日野市の環境行政への日頃からのご協力ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスの影響で変わった生活スタイルが元に戻りつつあり、屋外でのアクティビティを昨年度に比べてよく見聞きするようになりました。市内でも、日野の売りである身近な水環境を利用して、河辺でバーベキューをする方が増えて

います。コロナ前のように、気兼ねなく屋外で遊ぶことができるようになる日が近づいていると期待が高まります。

しかし、その反面バーベキューによる様々な問題が日野市へ報告されています。ゴ



ミの不法投棄、昼夜を問わない騒音、通行人への煙被害など。近隣住民からはバーベキューを禁止する旨の条例を作ってほしいという声も出ています。

河川は公共の場であり、だれもが自由に利用することができるのが原則です。日野市としては、これからも多くの方に水辺に親しんでいただくという観点から、現状では全面的な禁止という結論まで至っておりません。ルールを守って楽しんでいただく方もいらっしゃいます。一部のの方々によって日野の水辺と親しむ機会を奪ってしまうことが無いように、マナーを守った利用を心がけましょう。

日野市としてこれからも啓発活動が続けてまいります。引き続きのご協力お願い申し上げます。

春の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなであちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月(春)と11月(秋)の最終日曜日を「市内をみんなできれいにする日」として行います。回数を重ねていくごとに、参加する方が増え「まちをきれいにする」意識が、とても高まっているのだと感じています。

市内一斉清掃は自治会、学生ボランティア等、様々な団体の方々にご協力をいただいております。

この活動を今後の地域の美化活動を進めるきっかけとして



令和4年度 春の一斉清掃

| | | |
|---------|--------|--------|
| 参加団体(組) | 207 | |
| 参加人数(人) | 14,000 | |
| 収集量(kg) | 可燃 | 29,500 |
| | 不燃 | 520 |

て、また、皆さんの交流を深め地域のつながりを強めるきっかけづくりとしていただければ幸いです。
今回は、令和4年11月27日に秋の市内一斉清掃を予定しています。
引き続き、ご協力お願いします。
【環境保全課】



水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介します

⑧ 仲田の森蚕糸公園

― 新たな水辺の創造へ ―

仲田の森蚕糸公園はかつて国内の養蚕業を支えた研究機関「蚕糸試験場日野桑園」があり、現在でも当時の蚕室が一棟残っています。もともと水田だったことから公園内には下堰を分水した水路があり、水が流れています。公園は子どもたちの遊びの場となっていますが、市民により公園整備が進められており、用水もビオトープとして再生が期待されています。現在はまだ途中段階ですが、生きものが生息しやすい緑豊かな水辺になることと思います。



仲田の森

公園脇には地下75mからポンプで汲み上げている地下水があり、仲田公園親水路に流しています。水汲みの人の多い場所です。また、道路を挟んだスポーツ公園内の木立の中にもかつての水路を活かした小さなせせらぎがあり、公園に潤いを与えています。
第一中学校の生徒の作品、陶板絵札15センチ角のオブジェがあります。

⑩ 日野宿を支えた用水

甲州街道沿いに日野宿が置かれたのは用水が流れていたことも理由の一つです。昭和30年代までは甲州街道をはさみ日野用水上堰(宿裏堀)、日野用水下堰(北裏川)2本の用水路の間に家が立ち並び、その外側に田畑が広がっていました。甲州街道沿いの敷地は短冊形に連なりウナギの寝床のように細長く、通りに母屋が面しその裏に庭や菜園があり、背後を流れる日野用水上・下堰までつながっていました。用水は生活用水、防火



宿裏堀から甲州街道までつながるあいの道



日野宿を支えた用水

用水や時には舟運にも使われていました。今は敷地のほとんどが分割されてしまいましたが、現在も家の並びや蔵、あいの道など宿場の名残がみられます。そして甲州街道をはさむ2本の用水路も残っています。日野駅近くのこれらの日野宿の歴史的遺産をいつまでも残してほしいものです。



人気者だけど厄介者 アメリカザリガニ

アメリカザリガニは水辺の生きものの代表格として、今も昔も子供たちから高い人気を誇ります。皆さんの中にも子供の頃ザリガニ釣りをしていたという方も多いと思います。市内でも河川や用水路池などほとんどの水辺で見つけることができます。人気の一方で、侵略的な外来種として、生態系に大きな被害をもたらしている生きものでもあります。

●大船から全国へ

アメリカザリガニはその名の通り、北アメリカが生まれ故郷です。1927年に神奈川県の大船へ、養殖ウシガエルの餌として輸入されました。この時輸入されたのはわずか27匹。その後、ここから逃げ出した個体が広まり、1960年代には北海道と沖縄を除く

全国に、そして現在では全都道府県で生息が確認されています。ここまで広がった要因には、一度に最大600個の卵を産みお腹で保護する繁殖力や、数百mまで可能な陸上移動に加え、放流や飼育個体の脱走による人為的な要因が大きいです。

●環境を作り変える 「エンジンア」

雑食性で、ドジョウなどの魚や、ヤゴなどの水生昆虫、カエルやサンショウウオなど両生類に加え、水草も大好物でどんどん食べてしまいます。さらにただ水草を食べるだけでなく、水草を切断することで他の生きものの隠れ場所を無くし、獲物を捕まえやすい



アメリカザリガニと茶色い池

環境を作り出ししていると知られていきます。アメリカザリガニが侵入した池では水草が完全に無くなってしまいうこともあり、水草を棲みかにした生きものは激減し、水質も悪化、泥が巻き上がり茶色く濁った池が生まれます。このように、自らが暮らしやすいように環境を作り替え、生態系に大きな影響を及ぼす生きものを、「生態系エンジンア」と呼びます。私たちが良く見る水辺の光景は、アメリカザリガニによって改変されてしまった光景なのです。ちなみに写真のような茶色く小さいザリガニは、よくニホンザリガニと間違えられるのですが、ニホンザリガニは北海道や東北にしか生息しておらず、身近に見ることのできるザリガニは全てアメリカザリガニです。

●「入れない、捨てない、 拡げない」

生態系を大きく変えてしまうアメリカザリガニは、今後特定外来生物に指定される予定です。これまでは指定されると、輸入や販売、放流に加え、飼育も禁止されていますが、国内で約50万匹が飼育



小さい「アメリカザリガニ」

されているアメリカザリガニのような生きものを指定した場合、飼育されていた個体が大量に捨てられてしまう懸念がありました。そのため今年5月にアメリカザリガニなどを念頭に、種によっては飼育を禁止しないと法律改正がなされました。アメリカザリガニも、悪意があっても生態系を壊しているのではありません。これ以上外来種を増やさないための鉄則は、①国内に入れない、②ペットを捨てない、③他の場所に拡げないことです。生きものとしてはとても魅力的なアメリカザリガニですが、外来種であるという前提を踏まえて接することが必要です。

文・写真 日野の自然を守る会
片山 敦

あ と が き

猛威を振るっていた新型コロナウイルスにもようやく終息の兆しが見られ始めました。この記事が皆さんのお手元に届くころにどうなっているのかわかりませんが、このまま落ち着いていくことを願っています。

去年や一昨年の今頃に比べたら、幾分か家から出やすくなっているのではないのでしょうか。外に出れば緑と清流が目に入る。日野のいいところです。

自然はコロナ流行前と変わらずそこにあります。ウイルスなんかものともせず、自然に影響を与えるのはいつも人間なのだと思います。自然にとってはまさにウイルスのような私たちですが、せめて環境の維持・向上を望むいいウイルスでいたいものです。

以上、新人職員による拙いあとがきでした。これから日野の自然環境のために尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。